

▼市の部門別 CO₂ 排出量 (2013年度)

部門	CO ₂ 排出量(ト)	割合(%)	
家庭	79,208	14.36	
産業	製造業(中小事業所)	21,497	3.90
	製造業(特定事業所)	215,588	39.08
	建設業・鉱業	4,191	0.76
	農林水産業	15,144	2.75
業務その他部門	90,391	16.38	
運輸	自動車(旅客)	62,232	11.28
	自動車(貨物)	59,275	10.74
	鉄道	4,148	0.75
合計	551,674	100.00	

市が策定した「市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」は、温室効果ガス排出状況の分析や、排出削減目標と目標達成のための施策を定めたものです。

計画では、市が実施する地球温暖化対策に関する施策や取り組みを示しています。

基準年度のCO₂排出量

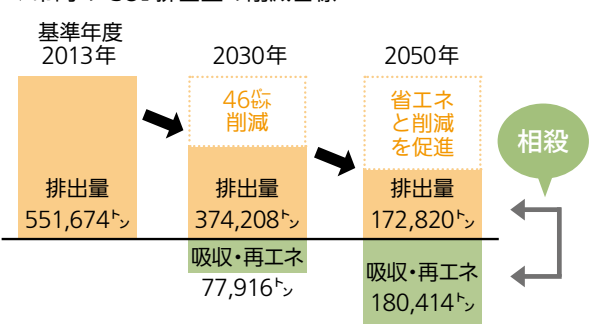
基準年度である2013年度の市内のCO₂排出量は、環境省が公開している「自治体排出量カルテ」の数値を基に推計しています。同カルテは部門別に分類されていますが、具体的な報告数値のある製造業は別途算出しました。

CO₂の排出量削減には、次の四つの方法があります。

- ① エネルギー量の削減(省エネ対策など)
- ② エネルギーの脱炭素化(電力の再エネルギーなど)
- ③ 利用エネルギーの転換(オール電化など)
- ④ 森林による吸収(森林吸収量の算定による削減)

計画では、これらの方法によりCO₂排出量を減らすとともに、森林のCO₂吸収量の拡大や再エネの導入により、

▼市内のCO₂排出量の削減目標



排出量の実質ゼロを目指します。

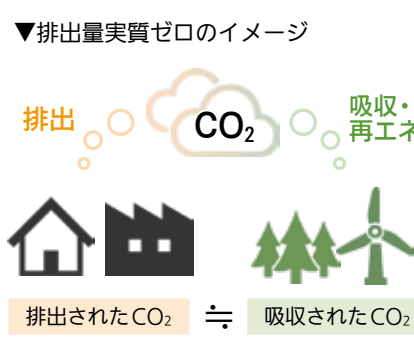
□ 森林によるCO₂の吸収

CO₂吸収源として認められる森林は、間伐などの整備が行われた森林や、適正な管理が行われていると解釈される保安林などです。

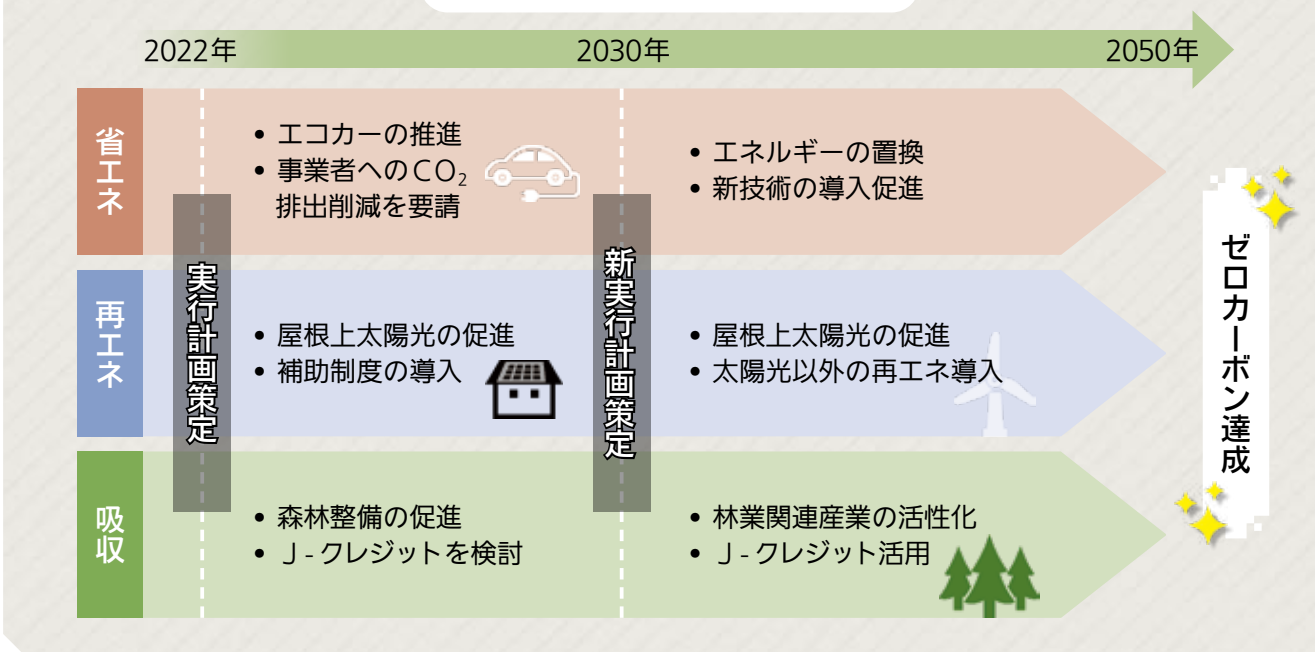
CO₂排出量は、吸収源の森林面積と樹齢、樹種から算出しています。

□ 省エネ・再エネ・吸収

市では、CO₂排出量の削減目標を達成するため、今後の主な取り組みやスケジュールを、省エネと再エネ、吸収の三分野において、下図のように定めました。市民の皆さんや事業者の方々などと連携し、推進していきます。



削減目標達成に向けた計画表



再エネ=太陽光・風力・地熱・中小水力・バイオマスといった「再生可能エネルギー」の略
J-クレジット=CO₂などの温室効果ガスの排出削減量や吸収量を、売買可能なクレジットとして国が認証する制度

市の地球温暖化に対する計画



▲冷蔵庫の中身を詰め込みすぎないように整理する

地球温暖化による異常気象

近年、地球温暖化が原因と考えられる災害や異常気象が多発しています。

地球温暖化は、私たちの生活から排出されるCO₂などの温室効果ガスの増加が原因とされています。

未来を担う子どもたちに、美しい地球環境を引き継ぐためにも、温暖化防止に向けた行動を実践していくことが求められています。

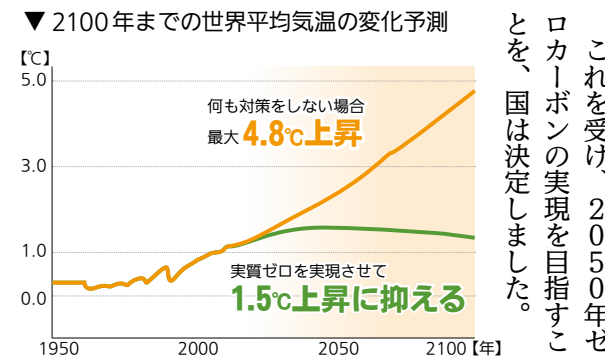


パリ協定と国のゼロカーボン実現の表明

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第5次評価報告書(2014年)によると、何も対策を取らない場合、2100年の平均気温は、2000年ごろと比べ最大4.8度上昇するとされています。

2015年12月、国連気候変動枠組条約締約国会議(COP21)において、世界の平均気温上昇を産業革命以前と比べ1.5度に抑えるために、全ての参加国が温室効果ガス

排出削減に取り組む「パリ協定」が合意されました。これを受け、2050年ゼロカーボンの実現を目指すことを、国は決定しました。



一人一人ができることから始めよう

特集 ゼロカーボンシティえな

市では、2050(令和32)年までにCO₂(二酸化炭素)排出量を実質ゼロにすることを目指すため、令和3年度に「市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を策定し、「ゼロカーボンシティえな」を宣言しました。同計画には、2030(令和12)年度のCO₂排出量を2013(平成25)年度比46%削減するための取り組みを定めました。

ここでは、ゼロカーボンを目指す背景や同計画の概要、家庭でできる取り組みなどをお知らせします。本市の、豊かな自然に恵まれた環境を次世代へ引き継いでいくため、温暖化などの環境問題を自分の事と考え、環境に配慮した取り組みを、皆さん一人一人ができることから始めてみませんか。

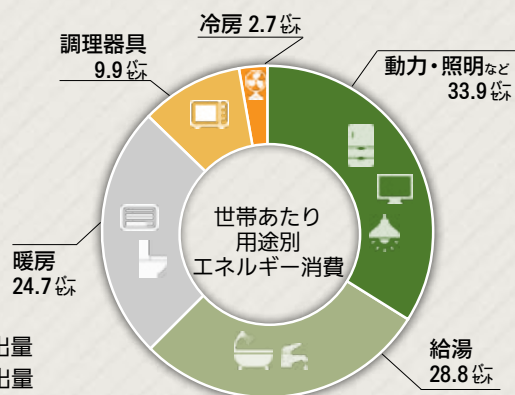
☎ ゼロカーボン推進室 ☎ 26-2111(内線209)

家庭でできる取り組み

計画では、2030年にCO₂排出を46%削減という目標を実現するためには、各家庭で世帯当たり年間783.4kgのCO₂排出削減を求めています。家庭でできる省エネに取り組んでみませんか。事業所でも同じ取り組みが可能です。

【CO₂ 1kgってどれくらい?】

- 500mlペットボトル約1,000本分の体積
- 50型液晶テレビ(消費電力140W)を約15時間視聴した時のCO₂排出量
- 自動車(ガソリン燃費17km/L)で約7.3km走行した時のCO₂排出量



●照明・エアコン

- 5カ所の照明をLEDに取り替える
→ CO₂ 219.5kg削減、12,150円節約
- 冷房は28度、暖房は20度に
→ CO₂ 40.7kg削減、2,250円節約
- 使わない電気ポットのプラグを抜く
→ CO₂ 52.4kg削減、2,900円節約

●入浴・トイレ

- 入浴は間隔を空けずに
→ CO₂ 85.7kg削減、6,190円節約
- 暖房便座のふたを閉める
→ CO₂ 17.0kg削減、940円節約
- 暖房便座の温度は低めに
→ CO₂ 12.9kg削減、710円節約

合計
CO₂ 783.4kg削減
約46,780円の節約
(年間)

●キッチン

- 冷蔵庫に物を詰め込みすぎない
→ CO₂ 21.4kg削減、1,180円節約
- 冷蔵庫やガス給湯器の設定温度を適切に
→ CO₂ 49.8kg削減、3,100円節約
- 冷蔵庫を壁から適切な間隔で設置
→ CO₂ 22.0kg削減、1,220円節約

●自動車の運転

- ふんわりアクセル
→ CO₂ 194.0kg削減、11,950円節約
- 加減速の少ないエコドライブ
→ CO₂ 68.0kg削減、4,190円節約

エコドライブを心掛ける



出典:資源エネルギー庁「省エネポータルサイト 家庭向け省エネ」

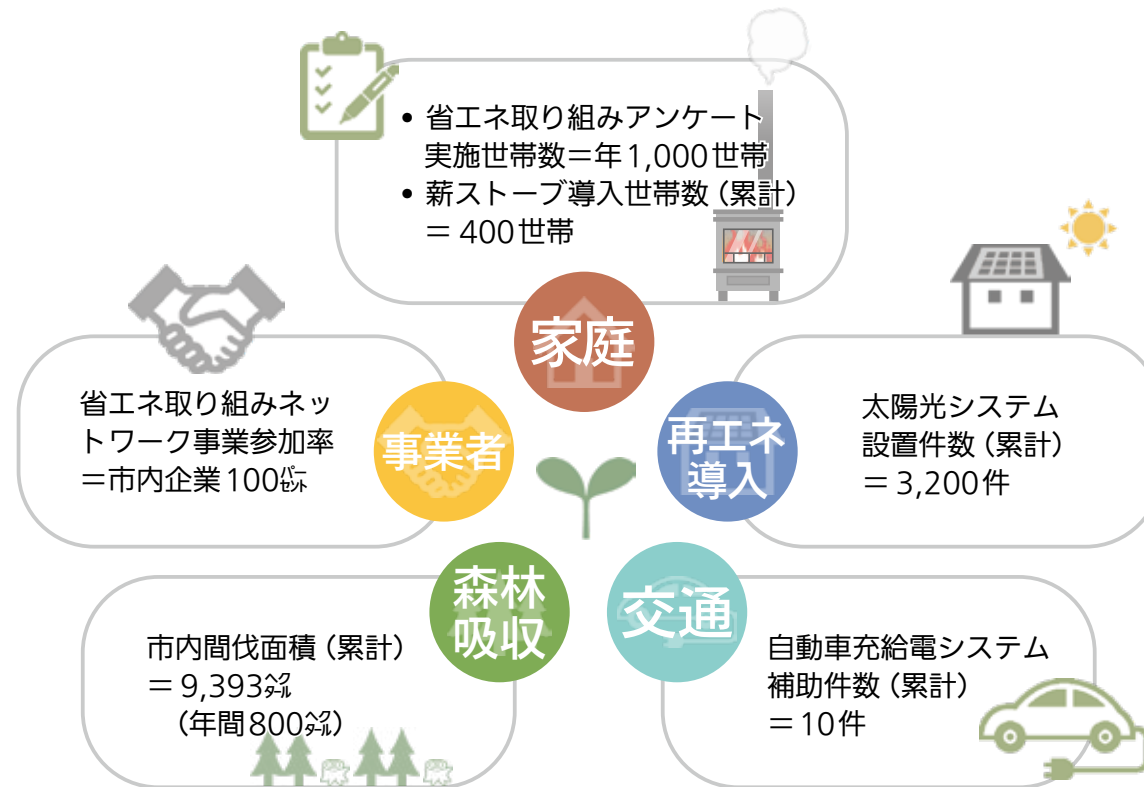
2030年までの具体的な取り組み目標

市が2030年までに行う取り組み内容を、目標指標として五つに分け、設定しました(下図)。目標指標は、地球温暖化対策実行計画の進捗状況を点検・評価するための「ものさし」です。事業者の方々を対象とした取り組みとして、省エネ取り組みネットワークの形成や省エネの普及啓発、エネルギー消費の見える化、省エネに関するアドバイスなどを実施します。



▲ゼロカーボンシティ宣言 地球温暖化対策実行計画

また、市では本年度、公共施設での取り組みを定める「地球温暖化対策実行計画(事業事業編)」を策定し、市内の公共施設における2050年ゼロカーボンを目指します。



省エネ住宅、住宅用新エネルギーシステムを支援

市では、脱炭素に向け、快適に暮らせる家や地球に優しい省エネ・創エネ住宅の普及を目指すために補助金制度を設け、支援していきます。この機会にぜひ活用ください。

●えなの木省エネ住宅建設補助(実施中)

市産材を80%以上使用し、市内建築業者によって新たに建築された住宅を対象に、建築費を最大50万円補助しています。

- 助成額 20万円/住宅1戸
- 加算額 市内に建設する場合20万円、長期優良住宅の場合10万円

田・問 林政課(西庁舎3階、内線415)



●住宅用新エネルギーシステム設置補助(7月開始予定)

□設置助成額

- ①住宅用太陽光発電システム 7万円/㎡(上限35万円) ※固定価格買取制度(FIT制度)を利用する場合は対象外
 - ②定置用蓄電池システム 52,000円/㎡アワー(上限26万円)
 - ③次世代自動車充電システム 設置費の3分の1以内(上限30万円)
 - ④太陽熱温水システム 設置費の3分の1以内(上限10万円)
 - ⑤家庭用燃料電池システム 10万円/件
- 田・問 ゼロカーボン推進室(本庁舎2階、内線209)



●インタビュー

ゼロカーボンに向けて、できることは何か。「私は、こんなことに取り組んでいます」

実行計画策定委員会委員
村上千枝子さん(三郷町)



緑が多い恵那でも、地球温暖化による異常気象を体で感じています。省エネシステムを利用するだけでなく、ごみの分別など市民としてできることに興味を持ち、環境問題を身近なものとして生活していきたいです。

実行計画策定委員会委員
藤井花乃さん(笠置町)



自転車や徒歩で移動する、使わない部屋の電気はこまめに消すなど、市民が意識すると事業者などにも伝わり、家庭よりも大きな取り組みができるかも。私自身も、まずは自分ができるエネルギー削減を行いたいです。

環境審議会委員
愛中理化工業(株)竹中道明さん



設備を見直し、社員がエコの意識を持つことで、作業の合理化と経費の節減が両立し、利益にもつながっています。「良くも悪くも、自分に返ってくる」と考え、どんな小さなことでも行動することが重要です。